

## XIX 田井中遺跡第9次調査 (TN92-9)

### 1 はじめに

田井中遺跡は、八尾市南部の志紀町西・田井中・空港1丁目一帯に所在しており、北は老原遺跡・志紀遺跡、西は木の本遺跡と接しており、南東には弓削遺跡、長瀬川を挟んだ北東には東弓削遺跡が位置している。

当遺跡では、これまでに当研究会が8度にわたる調査を行っており、その結果、遺跡の南部（田井中・空港地区）と北部（志紀町西地区）では様相の異なることが明らかになっている。南部では、陸上自衛隊八尾駐屯地内で4か所の調査（TN82-1、TN84-2、TN87-5、TN88-7）を行っており、現地表下2.5m前後で弥生時代前期から古墳時代中期に至る集落跡が検出されている。一方、遺跡北部では国家公務員宿舎敷地内で4度の調査（TN85-3、TN86-4、TN87-6、TN88-8）が行われており、現地表下2~5m前後で、弥生時代後期から平安時代後期までの水田遺構などが検出されている。また、北隣の志紀遺跡では、府営住宅敷地内で大阪府教育委員会による調査が行われており、ここではさらに下層で、弥生時代中期にまでさかのほる水田遺構を検出している。



第1図 調査地周辺図

## 2 調査の方法と経過

今回の調査は公共下水道工事に伴うもので、当調査研究会が田井中遺跡内で実施した発掘調査の第9次調査(T N92-9)にある。

調査区は東西12m・南北10mの発進立坑1か所で、調査期間は平成4年4月8日～5月10日までのうち16日間である。当初、教育委員会からは、現地表下2.1mまでを機械掘削とし、以下約0.9m程度を手掘りとして平安時代～古墳時代中期の水田耕作土に相当する上層までを平面的な調査対象とする指示が出された。ところが、これまでの周辺の調査結果からは、さらに下層部分でも遺構の存在が明らかにされていることから、下層部分の調査も必要であると協議を行ったが、変更はなされず、「下層確認」という名目で、下層の状況を観察することになった。そのため、まず予定通りの掘削を行い、古墳時代中期後半までの遺構面(7層上面)までの調査をおこなった。次いで、そこから約2m(地表下5m=T.P.+7.3m)前後の深さのトレンチを機械で掘削して横面観察したところ、これまでの調査結果と同様古墳時代前期(庄内期)～弥生時代中期に対応する土層が確認された。そこで、以下の調査方法について協議を行った結果、地表下3.8m(T.P.+8.3m)前後の古墳時代前期(庄内期)相当層直上までを機械掘削とし、以下の1m前後を再び手掘りとして平面的な調査を行うことになった。

## 3 調査概要

### 1) 基本層序

現地表面の標高はT.P.+12.0m前後であるが、地表から約1mについては、調査前にすでに機械掘削のために欠損しており、その直下では盛土や旧耕土・床土などが入り混じっていた。

調査区内で確認できた土層は、それ以下の1層から24層まで、そのうち水田耕作土の可能性のある上層は9枚である。

1層：灰色粗砂 (層厚) 10～15cm

2層：灰青色粘質シルト 5～10cm

3層：灰色微砂混シルト 5～15cm

以上3層は平安時代末期～鎌倉時代以降の洪水層で、瓦器腕片が数片出土している。

4層：暗灰色粘質シルト 20～30cm (上面の標高) T.P.+10.1m程度

平安時代末期～鎌倉時代の水田耕作土に対応する。耕作痕や足跡状遺構と考えられる波状痕跡が見られるが、畦畔は認められなかった。

5層：青灰色粗砂混シルト 10～15cm

4層の床にあたる土層で、鐵化鉄の沈着が顕著に認められる。

6層：淡灰色微砂 20cm前後

古墳時代中期後半以降の洪水層である。

- 7層：暗灰色微砂混粘土 10~20cm T.P. +9.5~9.6m  
 古墳時代中期後半の水田耕作土と考えられ、この層上面で東西方向の畦畔を検出した。
- 8層：暗灰褐色微砂混じり粘質シルト 5~20cm T.P. +9.4m 前後  
 水田耕作土の可能性は高いが、畦畔は認められなかった。この層までを平面的に調査し、以下の9~15層までは表面観察のみを行い、16~24層までは再び平面的な調査を行った。
- 9層：褐灰色微砂混粘質シルト 10~25cm  
 7層・8層の床にあたる土層と考えられ、5層同様酸化鉄の沈着が認められる。
- 10層A:灰色微砂混粘質シルト 0~15cm  
 B:灰色微砂と暗灰色粘質シルトの互層 0~20cm  
 古墳時代中期前半の洪水層である。調査区西壁ではおもにA層が堆積し、西壁北側から北壁にはA層の下部にB層が堆積する。
- 11層A:褐灰色シルト質粘土 15~20cm T.P. +8.9~9.1m  
 B:暗灰色シルト質粘土 0~5cm  
 古墳時代中期前半の水田耕作土と考えられる。B層はA層の上部に薄く堆積しており、調査区北壁でのみ認められた。波状痕跡が目立ち、北壁西端および西壁中央北よりで畦畔状の高まりが認められた。
- 12層：灰色微砂～中砂 0~15cm  
 古墳時代中期前半以前の洪水層で、調査区北壁東側では厚く、西壁南側ではとざれる。
- 13層：暗灰色礫混粘土 5~15cm T.P. +8.7~8.9m  
 礫をごく少量含む土層で、波状痕跡がわずかに認められる。調査北壁西側、西壁南側の2か所の計3か所で、畦畔状の高まりが認められた。
- 14層：暗灰色粘土 10~35cm T.P. +8.65~8.8m  
 この層も水田耕作土の可能性のある土層で、調査区西壁南側の2か所、13層の高まりとほぼ同一の地点で畦畔状の高まりが認められた。
- 15層：淡灰色粘土 30~40cm T.P. +8.5~8.6m  
 水田耕作土の可能性のある層であるが、波状痕跡・畦畔等は認められなかった。底部には薄い植物遺体層が数枚堆積している。
- 16層：黄褐色粗砂 5~10cm T.P. +8.2m 前後  
 17層：灰褐色微砂混シルト質粘土 5~10cm  
 18層：緑灰色微砂 0~5cm  
 以上3層は古墳時代前期（庄内期）以前に比定される洪水層で、これまでの調査では

16層粗砂上面で庄内期の遺構が検出されているが、ここでは認められなかった。

19層：暗青灰色疊混粘土 5~15cm T.P. +8.1m 前後

弥生時代後期の水田耕作土に比定されるが、水田施設は認められなかった。

20層：黒灰色疊混粘土10~20cm

19層の床にあたると考えられる土層である。

21層A:暗灰色粘土混粗砂 5~15cm T.P. +7.9m 前後

B:暗灰色粗砂と灰青色シルトの互層 15~30cm

弥生時代中期以降の洪水層である。これまでの調査では、この層上面で弥生時代中期後半以降の遺構が検出されている。B層には腐敗した植物遺体が多量に含まれている。

22層A:灰青色微砂 0~10cm

B:灰青色シルト質粘土 10~25cm T.P. +7.65~7.7m

A層はB層の上面に部分的に堆積する土層である。B層上部は粘土・シルト・微砂の薄い互層となっており、弥生時代中期の水田耕作土に比定される。畦畔は認められなかったが、調査区北西隅で高まりがわずかに認められた。

23層：黒灰色疊混粘土 20~30cm T.P. +7.45~7.6m

22層の床にあたる土層で、上面には植物遺体や炭化物が薄く堆積している。調査区北西隅、22層の高まりの下部は落ち込んでいた。この層上面で弥生時代中期の土器片が1点出土している。

24層A:灰色微砂 20cm以上 T.P. +7.15~7.25m

B:暗灰色疊混微砂 0~15cm

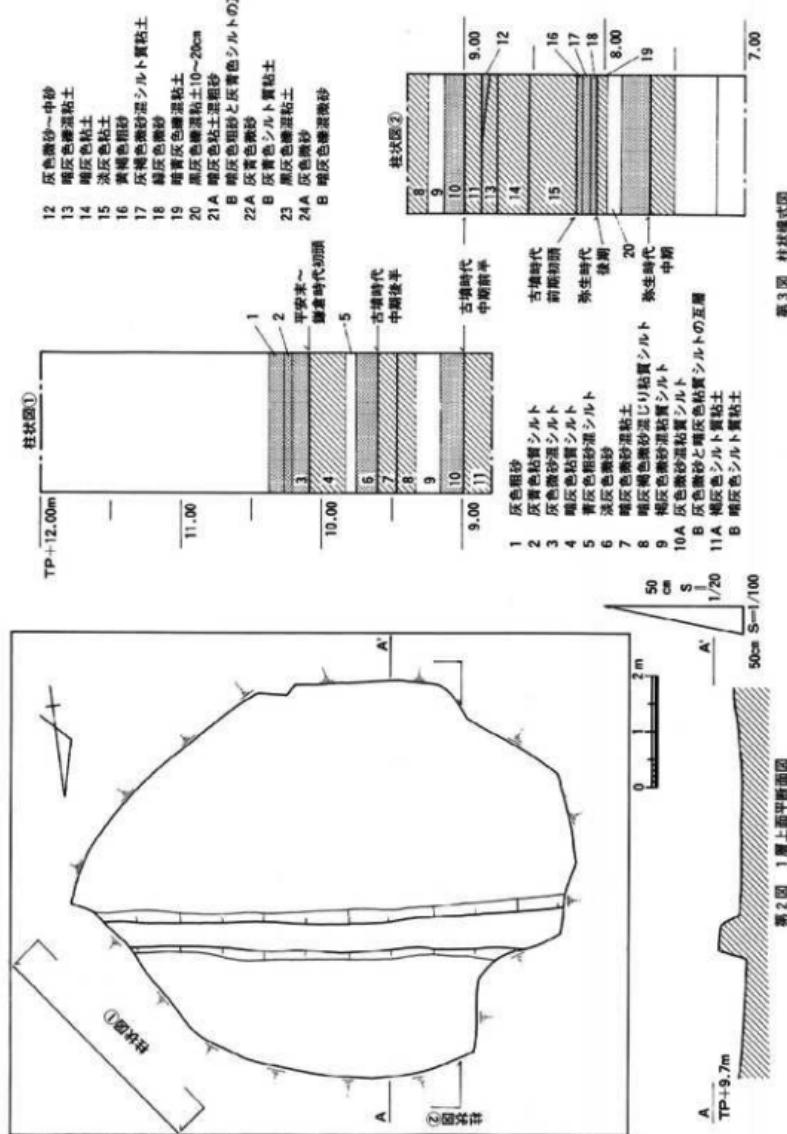
弥生時代中期までの洪水層と考えられる。遺構・遺物は認められなかったが、北西隅にB層が部分的に堆積しており、この部分が、上層の22層・23層でも高くなっている。

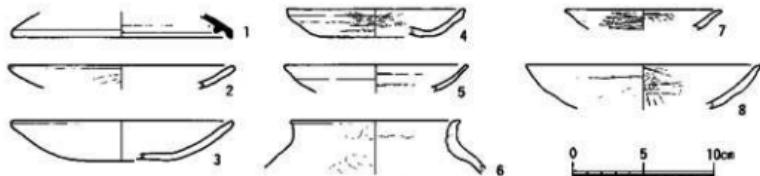
## 2) 検出遺構と出土遺物

周辺の調査結果などから、水田耕作土の可能性のある土層を9枚(4・7・8・11・13~15・19・22層)確認したが、確実なものは、畦畔を検出した7層上面のみである。

7層上面で検出した畦畔は、検出長8.5m、下幅70~110cm、上幅45~70cm、高さ7~11cmで耕作土を盛り上げて構築されている。水田上面は、畦畔を挟んで南が北よりやや高い。上層の6層中から、須恵器杯蓋(1)・土師器杯(2・3)・土師器甕(6)の他、古墳時代中期以降、平安時代前半までの遺物が含まれている。

その他の遺物は、1~4層から土師器杯(4)・黒色土器-B類甕(5)・瓦器甕(7・8)等の小破片が少量出土しており、下層の23層からは、弥生時代中期の土器片が出土している。





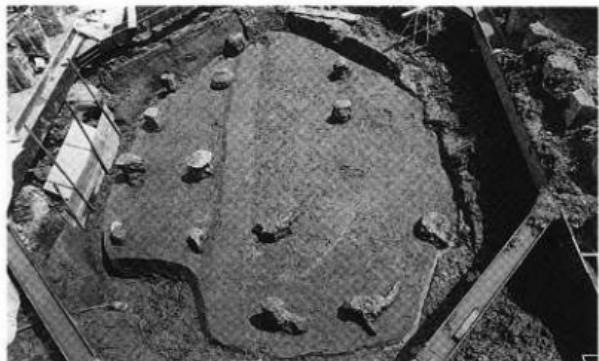
第4図 出土遺物実測図

### 3) 出土遺物観察表

番号	器種	出土層	法面 (cm) ①内は鏡光係数	色調 外 内	胎 土	焼成	技法・形態等の特徴	備考
1	角形器 杯	6層	口 径(15.5)	白灰色 (内は中灰)	赤	良好	凹面ヘラケズリの後ナデ	
2	十字器 杯	6層	13 径(15.8)	淡黄褐色 (内は茶)	赤	良好	外面ヘラケズリ後ナデ・ヨコナデ 内面ナデ・ヨコナデ	
3	十字器 杯	6層	11 径(15.4)	淡黄茶色 (内は茶)	赤	良好	外側ヘラケズリ後ナデ・ヨコナデ 内面ナデ・ヨコナデ	外表面に傷 付着
4	上部器 杯	3層	口 径(12.5)	淡灰茶色 (内は茶)	赤	良好	外面ヘラケズリ後ナデ・ハケ 内面ナデ・ハケ	
5	黑色上器 碗	3層	口 径(13.9)	黑色 (茶褐色)	赤	良好	ナデ・ヨコナデ後ヘラミガキ(粗)	(B面)
6	上部器 碗	6層	口 径(11.8)	黄褐色 (内は茶)	赤	良好	外曲線部指おさえ・ヘラケズリ後ナデ・口縁部 ハケ後ヨコナデ 内面終部ナデ・口縁部ヨコナデ	
7	瓦器 小皿	4層	口 径(10.9)	墨灰色 (内は茶)	赤	良好	ナデ・ヨコナデ後ヘラミガキ(粗)	
8	瓦器 碗	3層	口 径(16.4)	乳白-灰色 (内は茶)	赤	良好	外曲面ヘラケズリ後ナデ・ヘラミガキ(粗) 内面ナデ・ハケ後ヘラミガキ(やや粗)	

### 4 まとめ

調査の結果、水田耕作土の可能性のある土層を9枚確認した。水田遺構であることから遺物の出土量は少なく、面積も水田を調査するにはやや狭すぎる感があり、畦畔等の水田に関連する施設を明確に検出することはできなかった。しかし、今回の調査地は、これまでの調査地より南に位置しており、この地点にも弥生時代中期にまで遡り得る水田が広がっていることが明らかになったことは大きな成果であり、今後の当遺跡南部の調査研究のために重要な地点であるといえる。



7層上面（西から）



壁面（中層）



壁面（下層）

(財)八尾市文化財調査研究会報告39

八尾市埋蔵文化財発掘調査報告

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| I 跡部遺跡 (第7次調査)     | XI 美園遺跡 (第2次調査)     |
| II 跡部遺跡 (第8次調査)    | XII 東郷遺跡 (第39次調査)   |
| III 跡部遺跡 (第9次調査)   | XIII 久宝寺遺跡 (第15次調査) |
| IV 小阪合遺跡 (第22次調査)  | XIV 成法寺遺跡 (第9次調査)   |
| V 小阪合遺跡 (第23次調査)   | XV 竹浪遺跡 (第3次調査)     |
| VI 小阪合遺跡 (第24次調査)  | XVI 植松遺跡 (第1次調査)    |
| VII 中田遺跡 (第11次調査)  | XVII 太子堂遺跡 (第4次調査)  |
| VIII 中田遺跡 (第12次調査) | XVIII 東弓削遺跡 (第6次調査) |
| IX 中田遺跡 (第13次調査)   | XIX 田井中遺跡 (第9次調査)   |
| X 美園遺跡 (第1次調査)     |                     |

発行 平成5年12月

編集 財團法人 八尾市文化財調査研究会

〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号

Tel0729-94-4700

印刷 (株)近畿印刷センター

表紙 レザック66 <260kg>

本文 マットアート<90kg>

見返し 上質 <90kg>

色トビラ 色上質 厚口

